

野菜くらぶ栽培基準総論（目指すビジョン）

1 基本的考え方

私たちは「感動農業・人づくり・土づくり」の経営理念を達成させるために、私たちが栽培する農産物の栽培基準を定める。

私たちは顧客に感動を与え続けるために「農業は食べる人の為にある」という位置づけのもと、「安全」な農産物を「安心」して食べていただけるように長期的視点で人を育て、土をつくり農産物を永続的に届け、顧客創造していくことを使命にしている。

① 食べる人の要望を実現する

食べる人の要望を具体的にする農業生産を実現し、顧客を創造し続けることは大切である。それを実現していくためには、我儘な利己的な目先の要望に目を奪われることなく、永続的な視点、創造的視点をもって自然の摂理に沿った農業生産をし、自然環境と調和し負荷を与えない永続的な農業を行う。

② 「安全」の追求

有機農業の有機の語源に「天地有機」という言葉がある。これは「天と地を結ぶ仕組みがある」という意味であり、天は自然の摂理を意味している。

今まで「安全」の基準は化学肥料を使用しない。農薬を使用しない。という直接的で分析学的な見地だけで評価されてきたが、地球温暖化についても無視することはできなくなった。

今後、農業生産段階で使用するエネルギーについても化石燃料から植物系燃料に転換しCO₂の削減をさせ、火力原子力発電から太陽光発電で電力を賄うなどとりくみ、間接的な安全性を高めていく。

③ 「安心」の提供

私たちは、永続的に農産物を届け続ける「安心」を顧客に届けるために、将来にわたって農業生産をすることが重要と考えている。永続的な農業を行うことが食べる人の「安心」に繋がるのである。

そのためには、後継者や新規就農者を育て次世代を育てる人財育成に取り組み、永続できる農業の在り方を作り上げる必要がある。子供たちや新規就農者が魅力を感じる農業を実現することで食料供給は「安心」できる環境ができる。

また、私たちは自分たちの生産履歴を残し農場の情報を求められた時には常に公開し、生産している農産物がどのように栽培され届けられているかを、食べる人たちに伝えることで、「安心」を担保していく。

④ 「おいしさ」「栄養価」の追求

私たちが生産する野菜は「おいしく」なければならない。それぞれの野菜が持っている能力を最大限生かし、「おいしく」「栄養価」の高い野菜の生産を常に追求していくことで、食べる人が健康な生活を営むことができる。

そのような野菜を届けるために、常に「栄養価」と「おいしさ」のバランスのとれた農産物生産を目指す。

2 生産技術に関わる考え方

これらのことを実現するために私たちは、自然の摂理に基づいた土づくりを基本とした農業生産を行い、目指していく。

① 農薬についての考え方

私たちは農薬を使用しない栽培を目指す、片方で農薬取締法を遵守することも求められる中で、農薬登録されてない防除資材の使用は禁止する。

農薬を使用しなければならない場合には優先的に J A S 法で定められた有機栽培で利用できる農薬を使用し、次に安全性の高い農薬を決められた使用方法で使用し、求められるバランスのとれた品質を目指す。

土壌消毒は、太陽熱消毒や蒸気消毒を推奨し、土壌燻蒸剤の使用を原則禁止する。

除草剤の使用は原則禁止するが、異物混入などの食品衛生に関わる場合やそのほかやむを得ない場合には品目ごとに最小限で認める場合もある。

② 肥料についての考え方

私たちは、有機 J A S 法に認められた資材を中心に使用し、堆肥や厩肥など身近にある資材を使用することを基本とする。また、有機肥料であっても適正量の使用に努め、過剰施肥は禁止する。

化学肥料については土地改良、季節要因、設備要因、代替えがない、安定供給安定品質のために緊急的に使用するなどの理由がない限り使用をしない。

③ 資材について

資材は作物に対して様々な汚染の可能性がないものを使用する。

④ エネルギーについて

現在、化石エネルギーを使用して農業生産を行っている。それを徐々に自然エネルギーに転換していくことで、生産の段階でも化石エネルギーの使用の減少を目指す。

例として

- ・トラクターに使用する燃料は B D F を推奨する。
- ・ハウス暖房はバイオマス、電気を推奨する。
- ・生産設備に使用する電気は、その使用料と同等の電気を太陽光発電することを推奨する。
- ・無駄なアイドリングの禁止
- ・省電力機材（LED 電燈など）への切り替え

⑤ 品質について

「有機だから・・・」という理由は通用しない。たとえ有機農産物であれ、農薬の使用を控えた農産物であっても、虫喰いや腐敗、病気などの農産物は商品価値がない。私たちは、栽培上での農薬削減を行いながらも出荷する農産物の高品質化を目指す。

⑥ 「おいしさ」「栄養価」について

おいしさの基準は食べる環境やその人の状態によってさまざまであるが、一般的には糖度や酸味、旨味成分、ミネラルによって感じる。その生成に関わっているのは光合成であり、光合成を十分に行えるような肥培管理を行い、施設栽培においては二酸化炭素の施肥、水質管理を行うことで、常に今以上においしさを追求した栽培管理を行う。

⑦ 人財育成について

私たちは、農業後継者だけでなく新規就農者を採用し育て農業生産力を高め将来にわたって安定した農産物供給ができる環境をつくる。

特に、新規就農者に関してはこの栽培基準に縛られず、その地域の栽培方法を尊重した中で化学肥料や農薬の使用も認め、新規就農者の経済的基盤をつくることを最優先にしていく。

新規就農者は、そのことに甘んじることなく経済的基盤をつくりながら栽培基準に沿った農業に近づけていくことが求められる。

3 具体的な栽培基準

具体的な栽培基準は、これらの考え方にに基づき、それぞれの品目ごとに作成し決めていくこととする。

附表 1：有機 JAS 使用可能肥料・資材一覧

名称	名称	名称	名称
粒状草木加里	共栄武尊有機	粒状苦土セルカ 2 号	クリーンペレット有機
マグキーゼ 25	液体ブロック W	苦土セルカ 2 号	W-15
めぐみ有機	有機の源 P	苦土セルカフミン	EF ポリマー
アイアンパワー	中国産バーミキュライト	パームアッシュ	オーガニックブレンド
マンガンパワー	アグリエー酢 AW-1	クワトロネオ	発酵鶏糞(久保養鶏)
ブルーマグ	ユーロピート	セルカ	TOKYO8
ウインドスター889	鹿沼土	緑の堆肥ペレット	サンエスカル Z
めぐみ有機(ペレット)	みつろう	純正カニガラフレーク	サンエスカルエール
緑の堆肥	純正木酢液	ぼかハッスル	
土壌改革	鶉熟	サカタ液肥 GB	
バイオペレ 743	有機用播種培土	有機用モミライト T	
サンスリー	甘糖くん	バイオマスター	
ウインドスター889 粒剤	トップフミン	バイオマスターペレット	
SK ミネラルマグ	ヒナイグリーン	菌勢群	

※ 上記表は有機認証機関に確認済であるが、変更の場合があるので有機 JAS 圃場で使用の際注意すること。

有機 JAS 使用可能農薬一覧

農薬名	用 途	農薬名	用 途
エスマルク DF	オオタバコガ	ドイツボルドーA	疫病、葉カビ病
ゼンターリ顆粒水和剤	オオタバコガ	Z ボルドー	軟腐、斑点細菌
サンクリスタル乳剤	ハダニ類、アブラムシ	クリーンカップ	うどんこ病、灰色カビ病
スピノエース顆粒水和剤	アザミウマ類	インプレッションクリア	うどんこ病
ボタニガード ES	コナガ、アザミウマ	クプロシールド	疫病
ボタニガード水和剤	コナジラミ	ケミヘル水和剤	葉カビ病、疫病
コロマイト乳剤	コナジラミ	ジーファイン水和剤	腐敗病
プリファード水和剤	コナジラミ類	イデクリーン水和剤	疫病、うどんこ病
サンケイ高度マシン 95	カイガラムシ類	バチスター水和剤	うどんこ病、灰色かび病
デルフィン水和剤	コナガ、オオタバコガ	アビオン-E	展着剤
サブリーナフロアブル	コナガ	クレフノン	銅水和剤による薬害の軽減
スワルスキー	アザミウマ、コナジラミ		
サフオイル乳剤	ハダニ類		
チューンアップ顆粒水和剤	アオムシ、コナガ		

※上記以外の有機 JAS 法に準じる登録農薬を使用する場合がある。